

**HITACHI**  
Inspire the Next

# Transmission Electron Microscope HT7800series

Revolution of Ultimate Luxury Imaging by Hitachi HT7800 TEM

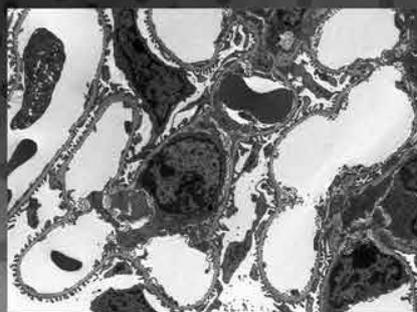
～バイオメディカルから材料まで～

革新的な操作性で、幅広い分野の要求に応える。

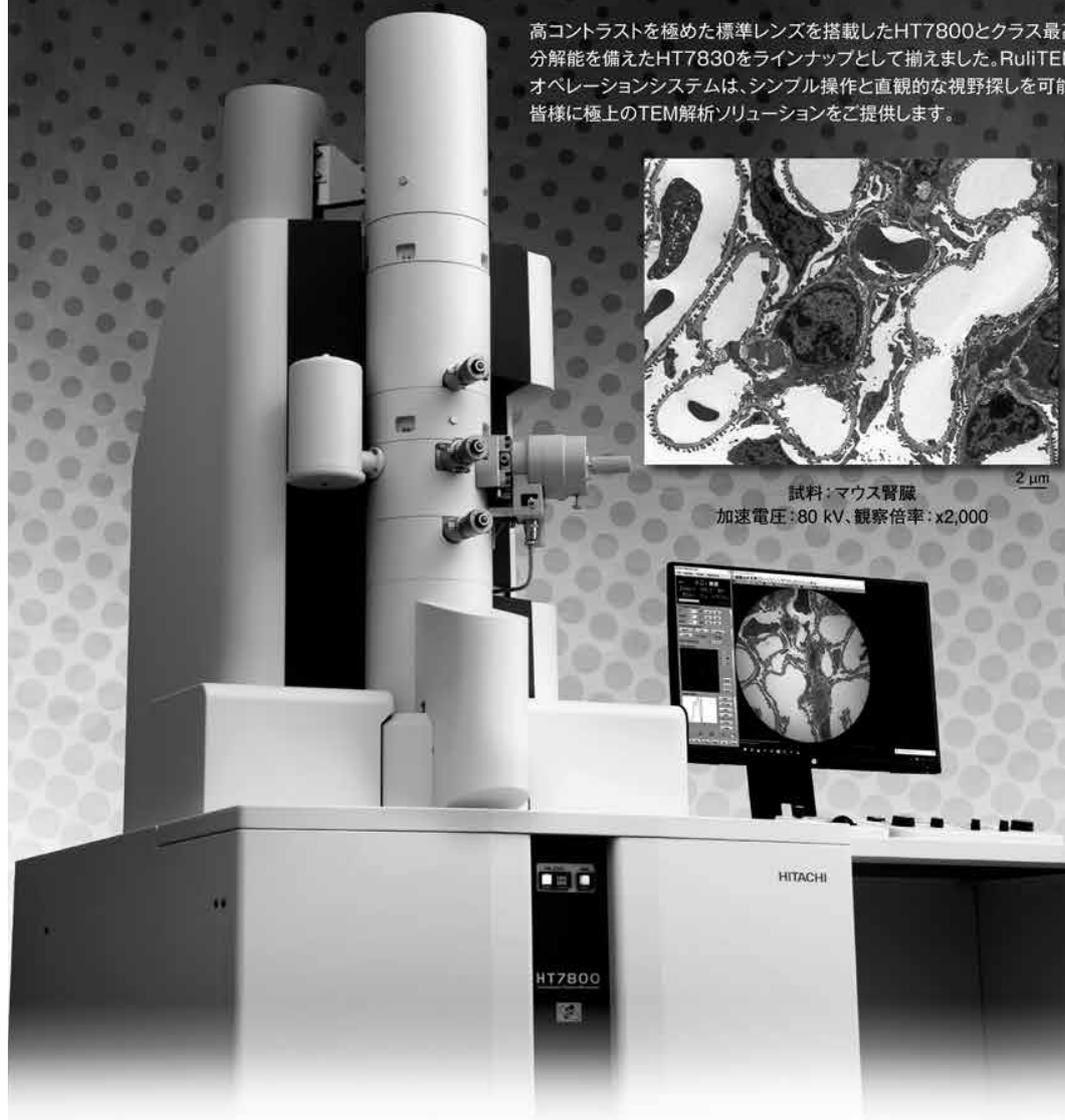
次世代TEM「*Ruli*TEM」誕生。

*Debut*

高コントラストを極めた標準レンズを搭載したHT7800とクラス最高レベルの分解能を備えたHT7830をラインナップとして揃えました。RuliTEMの新設計オペレーションシステムは、シンプル操作と直観的な視野探しを可能にします。皆様に極上のTEM解析ソリューションをご提供します。



試料：マウス腎臓  
加速電圧：80 kV、観察倍率：x2,000



◎ 株式会社 日立ハイテクノロジーズ

本社 〒105-8717 東京都港区西新橋一丁目24番14号 電話 ダイヤルイン (03) 3504-6111  
インターネットでも製品紹介しております。URL [www.hitachi-hightech.com/jp/science/](http://www.hitachi-hightech.com/jp/science/)

# 新日本海藻誌

—日本産海藻類総覧—

吉田 忠生 著 B5判・1248頁・定価(本体46,000円+税)

岡村金太郎著「日本海藻誌」以来、実に60余年ぶりに刊行された海藻学の決定版。斯界の権威が日本の海藻を網羅して書き下ろした歴史的大著。綱、目、科、属、種などの分類階級ごとに、形質の特徴、および他との比較などを詳細に記述。また「綱から目へ、目から科へ・・・」わかりやすい検索表が付く。各種ごとに極めて詳細、細緻な文献リストが付される。さらに種ごとにタイプ産地、タイプ標本、分布地域名が示される。学名、和名の由来、生育地の特徴など、関連する話題も豊富。

# 有用海藻誌

海藻の資源開発と利用に向けて

大野 正夫 編著 B5判・596頁・定価(本体20,000円+税)

本書は「生物学編」、「利用編」、「機能性成分編」の3編から構成されどの項目からも必要なところから読むことができる。生物学編は、利用分野ごとに分けて、種名の査定に必要な形態、生活史、分布生態を記述。これらの水産、食用などへの利用や産業的背景、利用の歴史についても詳述する。利用編は、海藻産業の歴史的背景、加工技術から化学構造、品質などにふれ、将来への展望を示す。機能性成分編では、あまり知られていない海藻の成分とその利用範囲を幅広く記述。

# 日本の赤潮生物

写真と解説

福代康夫・高野秀昭・千原光雄・松岡数充 共編 B5判・430頁・定価(本体13,000円+税)

本書はこれまでに発生した赤潮の原因種と、これに混在した種を中心として収録するほか、赤潮を形成したことがなくとも、赤潮形成種を同定する際に比較すべき種や有毒種を含む。主として日本近海および日本の淡水域に出現する種類であるが、東南アジア海域で出現する重要な赤潮原因種も含む。記述は赤潮生物の大きさや外部形態の特徴を中心に行うほか、内部形態やシスト形成の有無、生活史、生理・生態などを述べる。

# 小林弘珪藻図鑑

*H.Kobayasi's Atlas of Japanese Diatoms based on electron microscopy*

小林 弘・出井雅彦・真山茂樹・南雲 保・長田敬五 著 B5判・596頁・定価(本体34,000円+税)

本書は、珪藻の分類学の成書として長く刊行が待たれていた待望の書であり、斯界の第一人者、故小林弘博士の名を冠するものである。プレートとその解説をはじめ、特殊な用語が多く使われる珪藻の殻構造の解説を電顕写真や線画を添えて分かりやすく示す。分類体系には最新の研究成果を盛り込む。用語の英語、日本語、ラテン語の一覧表や、学名と和名の対照表などを付し読者の便宜を図った。

# 淡水珪藻生態図鑑

群集解析に基づく汚濁指数 DA<sub>lpo</sub>, pH 耐性能

渡辺仁治 編著 浅井一視・大塚泰介・辻 彰洋・伯耆晶子 著 B5判・784頁・定価(本体33,000円+税)

日本のみならず世界各地から約1500のサンプルを採集、膨大なサンプルの生態情報を処理検討し、約1000種の珪藻についてその結果を分かり易くまとめる。生態情報の妥当性を期するため、すべてのサンプルを統一条件下で採集し、好清水か好汚濁か=きれいな水を好むのか、汚れた水を好むのか等を判断する環境指標としての珪藻群集の適性を、多くの図版で具体的に示す。

# 日本淡水化石珪藻図説

—関連現生種を含む—

田中宏之 著 B5判・612頁・定価(本体33,000円+税)

本書は日本の淡水成堆積物から見出された化石珪藻の図説であり、計236分類群を取録する(一部に汽水種、および現生の淡水珪藻も取録)。本文は各分類群の精密な電顕写真、和文解説、和英の図版キャプションから成り、解説の文献欄には、原記載、または標記の所属に組み合わせを行った文献、殻の形態、種の特徴等を理解する上で参考となり入手しやすい文献を示す。試料は前期中新世から完新世までの地層から採取したが、一部は現在の湖沼から採取したものを含み、産出層等への記載は、現生の浮遊・附着性試料は現生(Recent)、底泥の場合は完新世(Holocene)と記した。用語は基本的に Ross et al.(1979)、小林弘珪藻図鑑(小林ら2006)で示されたものを使用、おもな用語は巻頭に図示した。

## 学 会 出 版 物

下記の出版物をご希望の方に頒布いたしますので、学会事務局（庶務）までお申し込み下さい（価格は送料を含む）。

### 1. 「藻類」バックナンバー

各号、会員価格 1,750 円、非会員価格 3,000 円；30 巻 4 号（創立 30 周年記念増大号，1-30 巻索引付き）のみ会員価格 5,000 円、非会員価格 7,000 円；欠号 1-2 巻全号，4 巻 1，3 号，5 巻 1，2 号，6-9 巻全号。

### 2. 「藻類」索引

1-10 巻，会員価格 1,500 円，非会員価格 2,000 円；11-20 巻，会員価格 2,000 円，非会員価格 3,000 円；1-30 巻（創立 30 周年記念），会員価格 3,000 円，非会員価格 4,000 円。

### 3. 山田幸男先生追悼号

藻類 25 巻増補，1977，A5 判，xxviii + 418 頁。山田先生の遺影，経歴，業績一覧，追悼及び国内外の藻類学者より寄稿された論文 50 篇（英文 26 篇，和文 24 篇）を掲載。価格 7,000 円。

### 4. 日米科学セミナー記録

Contributions to the systematics of benthic marine algae of the North Pacific. I. A. Abbott・黒木宗尚共編，1972，B5 判，xiv + 280 頁，6 図版。昭和 46 年 8 月に札幌で行われた北太平洋産海藻に関する日米科学セミナーの記録で，20 篇の研究報告（英文）を掲載。価格 4,000 円。

### 5. 北海道周辺のコンブ類と最近の増養殖学的研究

1977，B5 判，65 頁。昭和 49 年 9 月に札幌で行われた日本藻類学会主催「コンブに関する講演会」の記録。4 論文と討論の要旨。価格 1,000 円。

### 6. Proceedings of Algae 2002

藻類 52 巻特別号，2004，A4 変形判，253 頁。平成 14 年 7 月につくば市で開催された第 26 回日本藻類学会大会・日本藻類学会 50 周年記念行事・第 3 回アジア太平洋藻類学フォーラム合同会議（Algae 2002）のプロシーディング集。43 篇の論文・レビューを掲載。価格 3,500 円（送料込み）。

日本藻類学会ホームページ <http://sourui.org/welcome.html>

## 藻類

第 65 巻第 2 号

2017 年 7 月 5 日印刷

2017 年 7 月 10 日発行

禁 転 載  
不 許 複 製

© 2017 Japanese Society of Phycology

日 本 藻 類 学 会

Printed by Isebu Inc.

編集兼発行者

須田彰一郎

〒 903-0213 沖縄県西原町千原 1 番地

琉球大学 理学部 海洋自然科学科

Tel 098-895-8564

E-mail [sudas@sci.u-ryukyu.ac.jp](mailto:sudas@sci.u-ryukyu.ac.jp)

印刷所

株式会社イセブ

〒 305-0005 つくば市天久保 2-11-20

Tel 029-851-2515

Fax 029-852-8501

発行所

日本藻類学会

〒 780-8520 高知県高知市曙町 2-5-1

高知大学理学部

Tel: 088-844-8309

Fax: 088-844-8356（代表）

## 藻類

The Japanese Journal of Phycology (Sôruï)

第65巻 第2号 2017年7月10日

## 目次

秋田晋吾・山田博一・伊藤 円・藤田大介：静岡県沼津市平沢地先におけるアントクメのプロロタンニン含量：藻体部位による違いと季節的变化	91
<b>藻類学最前線</b>	
大沼 亮：ファイロトランスクリプトミクスで描く渦鞭毛藻類の進化	96
<b>特集 藻類学ワークショップ</b>	
ワークショップ I：原生生物学会出張ワークショップ・原生生物学的藻類学研究	
谷藤吾朗：ヌクレオモルフ・ゲノミクス・二次細胞内共生に伴うゲノム再編	100
有川幹彦・松岡達臣：繊毛虫コルボータにおけるクリプトピオシスの分子機構	103
山岡望海・園部誠司：イカダケイソウの滑走運動	105
岩本政明・原口徳子：繊毛虫テトラヒメナの二種類の核を分ける核膜孔複合体の構造と動態	108
ワークショップ II：クロレラと気生藻類の魅力-採集・観察から分類・バイオマス利用	
河地正伸：クロレラ・気生藻カルチャーコレクション	110
半田信司：気生藻の分類と生態 (1)-講義編-	111
半田信司：気生藻の分類と生態 (2)-実習編-	113
保科 亮：クロレラ分類の現在	115
大田修平：文献データベースから見た微細藻類バイオマス研究の動向	117
2017年度藻類談話会のお知らせ	119
日本藻類学会第41回大会開催記・参加記	
奥田一雄・峯 一郎：高知大会はいかがでしたか？	120
星野雅和・長尾優作：日本藻類学会第41回大会エクスカージョンに参加して	121
英文誌 (Phycological Research) 64巻3・4号和文要旨	123
学会録事	131
会員異動	134
入会案内	135
学会・シンポジウム情報	136
賛助会員 他	137
和文誌「藻類」投稿案内	138
コラム [藻の見遊山] 北山太樹：マリモの謎 -どこからきたのか? なぜまるいのか?-	122